

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：男女共同参画推進費

## 事業名 イクメン・イクボス拡大事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 子ども・女性局 男女共同参画・女性の活躍推進課 男女共同参画係  
男女共同参画・女性の活躍支援センター

電話番号：058-214-6431

E-mail：[c11234@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11234@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 3,759 千円 (前年度予算額：3,446 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,446	1,434	0	0	0	0	0	0	2,012
要求額	3,759	1,759	0	0	0	0	0	0	2,000
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・H27 国勢調査による岐阜県の女性管理職比率は、14.5%で全国 40 位と低く、女性が活躍できる環境づくりが十分であるとは言えない。
- ・県民意識調査の結果からも、家事・育児・介護のいずれについても、多くを女性が担っている結果となっている。
- ・この背景として、長時間労働などで男性が家事等に関わることが難しい環境にある他、職場の無理解、「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識があると考えられる。
- ・こうしたことから、男性も女性も、職場や家庭で自分らしく活躍するためには、職場環境の改善と、経営者や管理職の意識改革が必要と考え、組織の成果を出しつつ従業員のワーク・ライフ・バランスを考えた経営者や管理職の拡大を図る必要がある。
- ・また、男性が主体的に家事、育児、介護等に参画するための意識改革講座を開催し、女性の負担を軽減し、女性が働きやすい環境を家庭内からも整える必要がある。

## (2) 事業内容

- ①イクメン・家事メン養成講座（2回） R2：898千円 → R3：1,071千円  
男性が主体的に家事、育児、介護等に参加するための意識改革となる講座を開催。
- ②イクボス養成講座 R2：2,085千円 → R3：1,766千円  
(1) イクボス養成講座（1回）  
(2) イクボス養成学習会（1回 → 0回）  
※養成講座・学習会を同時開催とし、2部構成での開催を検討
- ③企業等内研修 R2：784千円 → R3：785千円  
ワーク・ライフ・バランスの推進を図る企業等の要望を受け、企業の課題を解決するためにふさわしい研修テーマの決定や講師の派遣を行うことで、企業等の意識改革や働き方改革を推進する。  
・規模 10名以上/回の参加が必要  
・講師 エクセレント企業経営者・社会保険労務士等
- ④事務費 R2：577千円 → R3：137千円  
※①については、R2 イクメン・家事メン拡大促進事業費からの統合  
※②③④については、R2 イクボス拡大促進事業からの名称変更

## (3) 類似事業の有無

- ・ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた講座・セミナー・シンポジウム・イベントを実施している都道府県：44 都道府県

## 3 事業費の積算内訳(単位：千円)

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	442	講師謝金
旅費	177	費用弁償、業務旅費
需用費	42	消耗品費、会議費
役務費	30	通信運搬費
委託料	2,920	チラシ作成業務委託、託児業務委託等
使用料及び賃借料	148	会場借上料
合計	3,759	

## 決定額の考え方

## 4 各計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略  
→ 1 「清流の国ぎふ」を支える人づくり  
(2) 誰もが活躍できる社会
- 少子化対策基本計画 → 子育てを社会全体で支える意識を高めるための環境づくり、働きながら子育てしやすい環境づくり
- 女性の活躍推進計画 → 女性の活躍推進に向けた組織風土づくり、ワーク・ライフ・バランスの実現、働き方改革の推進に向けた整備環境

# 事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

岐阜県男女共同参画計画(第4次)

○男性の育児休業取得率 H30 6.2% → R5 13%

○「ワーク・ライフ・バランス」の認知度 H29 61.8% → R4 80%

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
男性の育児休業取得率	6.2% (H30)	-	-	6.3% (R1)	13% (R5)	48.5%
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	61.8% (H29)	-	-	61.8% (H29)	80% (R4)	77.3%

### (前年度の取組)

#### 事業の活動内容(会議の開催、研修の参加人数等)

(令和元年度実績)

家事メン養成講座 1回開催 49名参加

イクボス養成講座

①イクボス養成講座 1回開催 170名参加

②イクボス養成学習会 2回開催 延べ33名参加

企業等内研修 35回実施

### (前年度の成果)

#### 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

(令和元年度事業成果)

家事メン講座の男性参加者からは「意識が変化した」、女性参加者からは「夫を家事に巻き込む方法を知った」と言う感想が寄せられ、男女共に意識の変化が見受けられた。

著名人による講座で、先進的な働き方改革を知り、ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業から、実際の取組事例を学び、同じ課題を持つ企業間で交流を行う事で、経営者等の意識改革につながる。

企業内で研修を実施することで、企業内の課題を共有し、働き方に対する意識改革が期待できる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>性別による固定的な役割分担意識は、企業・家庭共に根強くあることから、経営者等における働き方に対する意識改革、男性における育児・家事・介護等に参画するための意識改革を行う必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>・ 指標である「男性の育児休業取得率」が上昇傾向にある。 ・ ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業やワーク・ライフ・バランス推進企業の数が増加している。また、エクセレント企業の取組は、全国的にも評価されており、県内企業における取り組みも促進されている。 H26：内閣府 特命担当大臣表彰 1社（アース・クリエイト・建設） 厚労省 イクメングランプリ 1社（アース・クリエイト・建設） H27：内閣府 内閣総理大臣表彰 1社（萩原北醫院・病院） H29：内閣府 特命担当大臣表彰 1社（足近保育園・保育） ・ 企業経営者等、男性、女性、いづれの立場での講座参加者も、満足度が高く、意識の変化が見られる。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>・ これまで、別事業（別開催日）として行ってきた「イクボス養成講座」と「イクボス養成学習会」を、同日に行うことで、参加者の負担軽減・満足度アップ、事業経費の削減につなげている。</p>

### (今後の課題)

<p>事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男性の育児休業取得率は目標値の15%に到達しておらず、引き続き、男性の意識啓発を行う必要がある。</li> <li>・ H27 国政調査による女性管理職比率も全国40位と低く、環境づくりに課題がある。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>・ 経営者等、幅広い年齢層の男性に対して、働き方や家事・育児・介護等への参画に対する意識改革に効果的な、講座等を開催していく。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	

